



伊賀市・名張市 消防連携・協力の取組み

伊賀市・名張市の地域について

	伊賀市	名張市
面積	558m ²	129m ²
人口	88,766人	76,387人
昼間流入人口	名張から 7,801人	伊賀から 3,275人
職員	177人	115人
署所	1 署 7 分署	1 署 1 分署 1 出張所
防火対象物	4,106	2,294
危険物施設	777	202
県行政区域	伊賀地域	
保健所	伊賀保健所	
MC	伊賀地域対`ィカ`ィン`ィール協議会	
2次救急病院	3 病院輪番	



連携・協力の取組みの経過と連携・協力の内容

○課題

- ・同型の特殊車両を両市で配備
- ・指令業務の財政面・人員面での効率化
- ・市境界付近の署所の役割

○経過・内容

令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2024)	令和6年度(2024)
11 消防長間での合意 12 両市長による推進の指示 ・勉強会の開始	6 検討委員会を設置 11 両市議会へ最終報告 1 連携・協力協定書の締結 ・指令事務協議会の設置	4 予防分野の開始 ・警防・救急分野の開始	指令センター整備工事	4 指令共同運用の開始

※ 平成24年度 伊賀市消防本部 消防力適正配置調査報告書 ((財)消防科学総合センター)

予防：各種検査・火災原因調査の相互応援、広報啓発業務の協力、研修会・講習会の共同開催

警防・救急：全市域を対象に高度相互応援出動、車両・資機材の相互活用、訓練・検証会の合同開催

通信指令：共同運用

「予防業務」の連携・協力①

○事例

①総合病院の新築に伴う消防用設備等の完成検査（伊賀市内）

【施設】 地上9階地下1階、延床33,873㎡、

複合用途防火対象物（病院・養護老人ホーム・老人デイサービスセンター・保育所）

【火を使用する設備（条例）】 変電設備、発電設備、給湯設備、ガスヒートポンプ設備

【消防用設備（法）】 消火器、自動火災報知設備、誘導灯、スプリンクラー設備、非常放送設備
火災報知設備、連結送水管、フード消火設備

【検査職員】 2日、延べ28人（うち名張市消防本部4人）

②屋外型セルフ式ガソリンスタンドの新規設置に伴う完成検査（名張市内）

【施設】 給油設備4基、48kl地下タンク2基、太陽光発電設備、LPG

【火を使用する設備（条例）】 変電設備、乾燥設備（コインランドリー）

【消火設備】 第3・4・5種消火設備

【検査職員】 1日、9人（うち伊賀市2人）

③危険物輸送車両の立入検査（伊賀市内、名張市内）

【施設】 危険物移動タンク貯蔵所（タンクローリー）9台

【検査職員】 1日、伊賀市6人、名張市6人

「予防業務」の連携・協力②

④共同広報

- ・メディアへの広報（火災予防週間、危険物安全週間、年末特別査察、年間火災件数）
- ・リーフレットの共同作成（リチウムイオン電池火災の防止、枯草火災の防止、ガソリン携行缶給油等）

⑤共同研修会

- ・違反処理手順と留意事項の確認
- ・違反処理事例の発表

⑥イベントの協力

多文化消防フェスタへの出展

⑦電子申請システムの導入

データ処理方式を統一

○課題

他市の対象物を検査するにあたり

- ・審査、指導基準の違い
（消防用設備審査基準、危険物規制審査基準、火災予防条例審査基準等）
- ・権限の行使

連携・協力を実施して

○効果

・可能な業務から順次実施

段階的に業務の整理ができ、無理のない事務調整が実現している。
指令共同運用へ向けての地盤を、実際の業務のなかで作ることができている。

・消防用設備等の合同検査

他本部の検査内容や手順を知ることができ、審査基準等の統一への認識が深まった。
経験不足を補えている。
検査時間の短縮が図れた。

・より高度な応援出動

応援を要請する心理的ハードルが下がっている。
指令共同運用における出動計画の実証が行えている。

・各業務の専門部会による事務調整

顔の見える関係が構築できた。
広域化を意識する機会が増えた。